

精神科閉鎖病棟に勤務する看護師の患者を知りたいと志向する
knowing の能力に影響する要因

松本有希^{*,1)}、清水隆裕¹⁾、入江拓¹⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学

【はじめにおよび目的】ケアリングのプロセスの第一段階である knowing は、「他者の人生の中での出来事を、その人にとって意味を持つように理解しようと努力すること」と定義されている。特に、看護師－患者の人格的交流がケアの質に直結する精神看護において、knowing の発動は重要である。本研究の目的は、閉鎖病棟で勤務している精神科看護師が、入院している患者との関わりにおいて、ケアリングの knowing の能力を発動するための影響要因を明らかにすることである。特に今回は、knowing の能力に影響する環境要因を明らかにした。

【研究方法】研究協力に同意の得られた、精神科閉鎖病棟に5年以上勤務経験のある看護師9名を対象とした。knowingの能力を発動するための影響要因を聞き取るインタビューガイドを作成し、それに沿って1名につき1回約60分の半構成的インタビューを行った。インタビューは同意を得てICレコーダーに録音した。インタビューは録音後、逐語録を作成しデータとした。逐語録を意味ある内容ごとに切片化しコード化した後、内容の類似性に沿ってサブカテゴリー、カテゴリーへと抽象化した。また倫理的配慮として、本学倫理審査委員会（承認番号：24005）及び、研究協力施設の施設管理者または看護部倫理委員会より承諾を得た。なお、本研究に関する利益相反はない。

【結果】研究対象者9名のうち5名分のデータ分析を行った。閉鎖病棟で勤務している精神科看護師が、入院している患者との関わりにおいて、knowing の能力を発動するための影響要因としては、看護師個人の要因、看護師－患者の二者関係の要因、病棟環境の要因に大別された。今回、病棟環境に関する要因に焦点を当てて分析を行ったところ、37コードから17サブカテゴリーを経て、「安心して自分を出せる場である」「患者に意識を向けるエネルギー量とゆとりがある」「ケアを補い合える職場の連帯感がある」「患者の入院期間の長さが影響している」「心身共に疲労しやすい環境だと防衛的になる」の5カテゴリーが抽出された。

【考察】看護師が患者のことを知ろうとするという、knowing の能力が最大限発揮されるためには、看護師個別の資質や対人関係の能力が問われることが多い。しかしより前提条件となりうる、看護師を取り巻く多様な環境も、knowing の能力に影響を与えている可能性が示唆された。特に、病棟スタッフの織り成す空気感や病棟文化の中に、看護師自身がひとりの人間として、ゆとりや安心感を持って存在することができる環境においては、他者への好奇心や関心が高まりやすくなると考える。これは、他のスタッフとの連帯感に支えられながら、勇気を持ち、未知の存在である相手について、能動的に知ろうとすることに繋がっているものと考えられる。今後は、看護師の knowing の能力が引き出される環境の構造を明らかにしていく。それにより knowing 能力を高める環境醸成に必要な具体的方策を検討する。

倫理審査	■承認番号（ 24005 ） □該当しない
利益相反	■なし □あり（ ）